第6次青梅市総合長期計画基本構想の検討

資料8-1

時代の潮流

●人口減少社会の到来
国勢調査結果による平成22年10月1日現在の日本人の人口は1億2535万8854人と、前回調査（平成17年）に比べ37万人減
総人口1億2805万7352人は横ばい（平成17 年から0.2%増と調査開始以来最低の人口増加率）
青梅市においては139,339人と前回調査に比べ3,015人減少

●超高齢社会の本格化
平成21年8月に65歳以上人口比率が21%を超えた。

●資源・環境問題への対応
国をあげての再生可能エネルギーによる発電の普及や、CO2削減

●世界・アジア経済の変化
BRICなどの目覚ましい経済成長とリーマンショックやギリシャ危機に端を発する世界経済危機、TPP協議開始

●情報通信技術の高度化
時々刻々と進歩していく情報通信技術

●国際化社会
グローバル化に対応した人材育成

●増加する教育ニーズ
基礎学力、基礎体力、社会性向上など、教育に求められるニーズの増大

●地域主権改革
地域の多様な価値観や地域性に根ざした豊かさの実現

●新しい公共
行政だけでは解決できない諸課題の解決にむけた市民団体や企業などの多様な担い手との連携

●厳しい財政状況
800兆円を超える国・地方を通ずる借金、硬直化する財政、右肩上がりの扶助費

●東日本大震災が与えたもの
未曾有の大災害や原発事故を教訓とするこれからの取組

●安全・安心への意識
被災しても人命を守り、経済的被害を極力少なくする「減災」の考え方

●子育てや高齢者の生活を取り巻く環境
保育所待機児問題、相次ぐ児童虐待、老々介護、買い物弱者、孤独死、コミュニティの崩壊など

●地域ブランドバブル
地域ブランドの創出がもたらす効果の見極めと、適切な地域資源の発見

青梅市の将来像

まちづくりの基本理念

まちづくりの基本方向

時代潮流・東日本大震災・青梅市の特性
まちづくりの課題・市民の期待を踏まえた
取り組んでいくべき方向性

震災を契機とする課題

・自然エネルギーの活用方策
・住宅耐震対策の推進
・地域防災計画の見直し
・地域の絆
・災害時要援護者の支援のしくみづくり

青梅市の特性・地域資源・ポテンシャル

強み

・自然環境が豊かなまち（多摩川の清流やみどり豊かな森林）であり、自然を利用した子供の体力向上・健康づくり・情操教育ができる
・地盤が強く、地震には強い地域である
・観光地が多数ある（御岳山、御岳渓谷、塩船観音観音寺、青梅の宿場、永山丘陵地他多数）
・高い技術力や大規模な工場が集積するなど工業が充実
・集客能力の高いイベントがある
・道路・区画整理・下水道など都市基盤整備が進んでいる
・中央部を鉄道が走り、都心とのアクセスが良い
・青梅インターチェンジで国内高速交通網につながっている
・市民センター・体育館が各地区にある
・歴史的、文化的な資源がある
・一次から三次救急に対応できる総合病院がある
・まだまだ残っている地域力（消防団、自治会、環境美化等）

弱み

・土砂災害警戒区域および特別警戒区域に指定された個所が多い
・市街化調整区域内の山間の集落は、老人世帯が多く過疎化している
・面積の割に平坦な土地が少ない
・市内に就業場所が少ない
・伝統芸能や由緒ある街並みなど、歴史的な文化についての関心が低い
・商業や農業の後継者不足、高齢化
・市民の担税力が低い（所得が低い、土地の価値が低い）
・公共施設の老朽化
・市域が広く、山林が多いためハード整備に費用がかかる
・鉄道・バス等交通網や公共交通機関の不足
・介護保険施設等が多く存在することに伴う、公的負担の増大（施設の多さは、サービスの面では強みともなりうる）

将来人口（目標）・財政計画・土地利用の方針

まちづくりの課題・市民の期待

■ 地域性や地域ごとにどういうことに重点的に取り組んだらいいかという議論は必要
■ 青梅市に住んでいない方が、青梅市がこういう街だったら青梅市に移住すると言ってもらえるようなプラン
■ 近年の状況の変化をきちんと捉えて施策を考える必要がある
■ 市民所得が低いので、上げることを考える必要がある
■ 今後高齢化していく中で債務はどのようにしていくのか
■ 市民は、青梅市の将来に「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」、「保健、医療、福祉が整ったまち」、「産業や経済活動などに活気があり、にぎわいのあるまち」、「地震や災害に強い安全なまち」、「防犯体制を強化し犯罪のない安心して暮らせるまち」を望んでいる
■ 市民は、「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実」、「地域医療・救急医療体制の充実」、「自然と調和した美しい景観まちづくり」への重点的な取組を期待している
■ 子どもの意見としては、5割以上の子どもが「自然が豊かなところ」「お祭りが盛んなところ」を好きと答えている。
■ 子どもの意見としては、7割以上の子どもが「将来も青梅市に住み続けたい」と思っている
■ 子どもの意見としては、住み続けたくない理由は「遊ぶところが少ない」「お店が少なく買い物が不便」「青梅市以外での場所での生活を経験したい」と答えている
■ 子どもの意見としては、10年後の青梅市に期待するものは「自然がいっぱいあるまち」「安心で安全なまち」「すべての人に優しいまち」と答えている

課題の解決や市民に望まれる青梅市像の達成のための施策群